



当研究センターの安全実験室（P3施設）で、防護服に身を固め、ウイルス分離等の操作を行う研究員

## 健康危機管理にむけて!

「命・健康」の安全管理 「危機管理社会」の形成を!

近年、世界各地で異常気象や環境変化が頻発し、東南アジア、中国などでは鳥インフルエンザやSARS（重症急性呼吸器症候群）などの危険なウイルスによる発症事例が報告されており、日本にも、いつか侵入するのではないかと危惧されています。このような私たちの健康を脅かす危険性を回避するために「健康危機管理体制」を整備するための検討・研究が、今、国、県、保健所及び地方衛生研究所などの関係機関で進められています。当研究センターでも、全国の地方衛生研究所で構成する「地衛研全国協議会」において、これらの体制づくりに参画し、次の分野などについて協議を進めています。

### 原因不明健康危機

#### 災害有事・重大健康危機

- ・生物テロ、SARS、新型インフルエンザなど
- ・地震、台風、津波、火山噴火など

#### 感染症

- ・感染症発生時の初動対応等、必要措置など

#### 医薬品医療機器等安全

- ・副作用被害、毒物劇物被害など

#### 食品安全

- ・食中毒、健康食品など

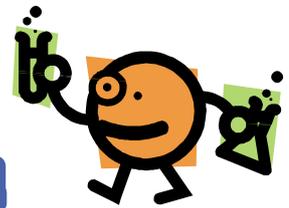
#### 生活環境安全

- ・環境汚染など



さて、あなたの家庭でも、「我が家の健康危機管理体制」として、何か取り組んでみませんか?

# 調査研究発表会 第四回「かがわ環保研・フォーラム」開催



平成18年3月10日

当研究センターが取り組んでいる調査研究の成果等内容を、関係研究機関等関係者に発表し、その成果等について幅広い研究評価を伺うものとして、「第四回かがわ環保研・フォーラム」を開催しました。

今回の発表は、次の5課題でした。

研究テーマ名・発表者・研究の成果等
<p><b>水生植物を活用した水質浄化実験</b>  <b>- 豊稔池の水質浄化の試み -</b>                      笹田 康子                      農業用集落排水施設からの排水を高度処理するために、ヨシ・クレソンなどを活用した豊稔池の水質浄化実験施設のこれまでの実験結果と応用について発表</p>
<p><b>香川県における健康食品中の                      医薬品成分について（第2報）</b>                      千田 有美                      健康食品中に含有されている医薬成分のスクリーニング方法を検討し、香川県内において買い上げた痩身用健康食品、強壮剤、及び脱法ドラッグ等についての実態を発表</p>
<p><b>希少水生植物保護の取組み（第3報）</b>                      白井 康子  <b>- アサザの成長過程と水質の関係及び花型 -</b>                      久米池に自生するアサザ群落の内外の水質調査結果及びアサザの花型について調査し、久米池アサザ群落は、小数固体のクローンによって構成されている可能性を示唆。アサザの保護活動事例について発表</p>
<p><b>畜産系コンポスト化処理時の臭気低減化に関する研究                      （第2報）</b>                      串田 光祥  <b>- 残留臭気の高減化（二次処理）に関する研究 -</b>                      畜糞を堆肥化する装置で、発酵処理する過程で発生する臭気を低減化するための、充填塔式生物脱臭法による装置の技術開発中。脱臭微生物起源として活性汚泥、微生物固定化担体としてカキ殻を用いた脱臭試験を実施。脱臭方法の改良結果について発表。</p>
<p><b>うどん湯煮廃水（ゆで汁）の処理技術に関する研究</b>                      藤田 久雄                      うどん湯煮廃水中の澱粉等をメタンに変換し、同時に廃水を浄化する高速メタン発酵法等を用いた安価で簡便な廃水処理装置の開発を行っている。今回は、うどん湯煮廃水の性状調査結果、酵素分解法及び試作した簡易メタン発酵装置による廃水浄化の基礎的実験結果を発表。今後、小型実用装置の開発につなげる。</p>
<p><b>うどん湯煮廃水（ゆで汁）の処理技術に関する研究は、</b>                      「うどん王国かがわ」ということもあって、会場からの興味も高いようであった。比較的小店舗のうどん店にとって、廃水浄化の実現が望まれているところであり、浄化処理費用を低減化し、実用化することが求められている。本研究にたいする期待の大きさが感じられた。</p>



研究成果は、3階研修室で発表しました。県内の試験研究機関・保健所・市町や関係の企業からの方々は、成果発表に耳を傾け、活発な質疑が行われました。

これらの研究成果は、昨年から実施された外部評価制度による優秀のA評価を受けたものもあり、県民生活の質の向上につながる実用的な研究を推進していくことや研究機関の活性化を図ることとしています。

外部評価結果の概要は、県民にわかりやすく取りまとめられ、県のホームページに掲載されています。

研究テーマは、「当研究センターの研究基本計画」に基づいて、今後も、県民ニーズの高い研究を推進していくこととしています。



うどん湯煮廃水（ゆで汁）の処理技術に関する研究の発表

# 環境ISOの効能!

## 「認定取得による成果」 節水・節電

当研究センターの環境ISO (ISO14001) への取組みは、2000年に始まりました。このころ、全国の自治体の環境関係研究機関では、先行する民間の環境ISOの認証取得と相まって、認証取得の取り組みが熱を帯びていました。自治体が環境ISOを認証取得する必要性は、地球の環境問題が社会全体で取り組むべき課題であることや自治体の地域における施策の実行に伴う環境影響が非常に大きいことなどが上げられます。

### 経緯

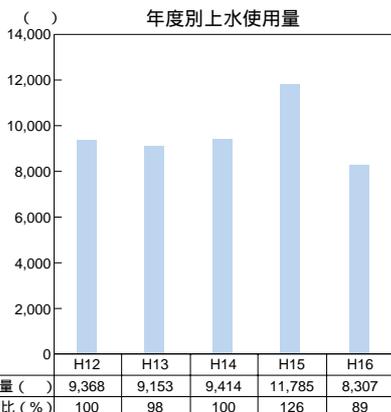
- 2002年3月 県の本庁舎がISO 14001の認証を受ける。
- 2002年6月 当研究センターの第1回ISO 14001 認証取得準備委員会の開催
- 2003年3月 県の本庁舎に当研究センターを含める「認証サイトの拡大」の審査に合格
- 2004年3月 「ISO 14001 継続審査」に合格
- 2005年3月 県の本庁舎認証取得後、3年目に受ける「ISO 14001 更新審査」に合格
- 2006年3月 「ISO 14001 継続審査」に合格



### 活動

当研究センターに独自に設置しました、「環境マネジメントシステム推進委員会」を中心に、システムの理解を深め、適切な運営と必要な訓練を行っています。環境ISOで目標とされる天然資源の節減の取り組みでは、「水(水道水)」、「電気」、「燃料」、「事務用紙」、それに「廃棄物排出量」の節減を、環境ISOの「著しい環境側面」として取り組んでいます。特に、当研究センター本来の業務そのものが環境保全に貢献するものですから、調査研究事業や環境教育事業などは、環境ISOの「有為な環境側面」として取り組んでいます。

#### 「水」の節減成果



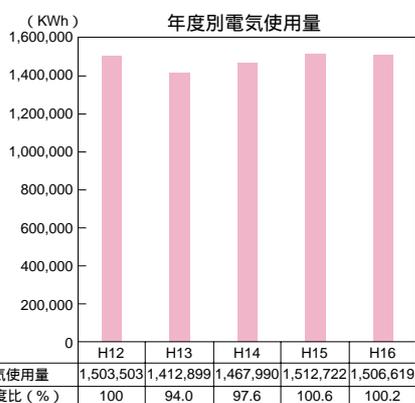
2002年秋 「環境マネジメントシステム推進委員会」において、使用水量が定常的に約10~20% (約10トン/日) 増加していることを確認。

2003年冬 常時稼働等の冷暖房装置の加湿装置の調圧弁からの漏水(純水)であることを究明、関係装置を補修、(通常の配管などからの漏水ではなかったため、漏水かどうかも含めて原因場所等の追及に困難を伴った。)

2004年 一部の常時稼働等の冷暖房装置の加湿装置の調圧弁からの少量の漏水(純水)が続く。

2005年 純粋製造装置の停止を含めた間断運転を試行。関係装置の支障等を確認。前年比節水率は、最大約30を達成%。

#### 「電気」の節減努力



上記の漏水(純水)により、純粋製造装置の稼働頻度が高くなることなどで、「電気」の使用量が削減目標値を数パーセント上回りました。オフィス関係の削減に向けての活動はもとより、研究設備・装置の管理面でも削減にも努めましたが、削減目標には届きませんでした。2005年に入って、既設のインバーター装置の補修・検討の中で浮上した「デマンド警報装置」を、7月に設置しました。「デマンド警報装置」は、30分ごとに電力需要量を積算し、設定値に達すると、アラームを発します(使い過ぎを知らせる)。これを受け、各部室の担当者が使用中の電気機器類(前もって選定済みの照明等)をアラームが解除するまで、一時停止するものです。これによって、「電気」の使用量はもとより、電気代の算定基準となる時間当たりの最大電力使用量が低減し、電力代の節約効果を生みました。

このように、当研究センターでは、「環境マネジメントシステム推進委員会」を中心に、全職員が環境ISOに向けて熱心な取り組みを進め、今後、より多くの成果が得られるよう努めています。

## 環境学習は、今

### 環保研・学習サポートボックス事業



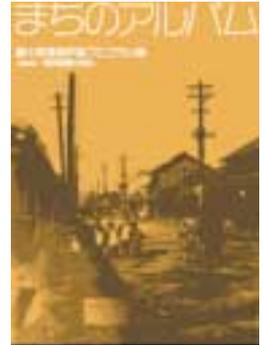
今年度も、水生生物調査が出前講座のトップ！

当研究センターの施設見学等の環境学習教育事業の実績は、64件、ここ数年、毎年延べ3500人規模を推移するようになりました。県の環境学習教育事業のうち、出前学習として環境体験学習を实践する「環境キャラバン隊」事業にも当研究センターは参画しています。

いづれの環境学習でも、今、地球の温暖化問題が、クローズアップされているところです。

このほど、「**まちのアルバム**」というタイトルで、地球の温暖化防止のための「香川県環境学習プログラム

集」を、県 環境・水政策課において、当研究センターの職員を含むワ・キンググループ等で創作しました。学校等での「総合の学習の時間」に先生方が環境学習を実施するうえで、利用しやすいように構成されています。4月以降に県のホームページで閲覧できますし、県下の小中学校に配付されることになっています。次世代に向けての環境学習は、今後も充実が望まれるところです。多くの学校で活用されることを願っています。



## 「環境交流フェア」平成17年11月12・13日

主催：香川県、エコライフかがわ推進会議

場所：サンポート高松ほか

「環境活動の輪を広げよう」をテーマに600人が集い、県民の環境保全に関する関心を深め、県民や民間団体が取り組んでいる環境保全活動の成果を広く発信しました。

エコライフかがわ環境フェスタが毎年開催されていましたが、今年度は「環境交流フェア」として開催。当研究センターは、アスベスト関連の展示を行いました。



## 「食品中の放射能測定のための」 モニターになっていただけませんか。

当研究センターが実施している環境放射能調査には、「全ベータ放射能（雨水）」、「核種分析（大気浮遊じん、土壌、農産物、日常食等）」及び「空間線量率（大気）」の三つの調査項目があります。このうち、核種分析の『**日常食調査**』は、高松市内の5名（5家庭）の協力を得て、一日分の飲食品を、年に2回（6月、12月）調査しています。この日常食の提供をいただける方を募集しています。協力いただける方は、当研究センター環境放射能担当まで、ご連絡をお願いします。

（先着5名まで・直通電話087-825-0403）

## 「かんきょう家計簿2006」をつけてみませんか

この家計簿で、地球温暖化についての基本事項をまなびながら、二酸化炭素の排出量を減らしましょう。

香川県環境森林部環境・水政策課ほか

## かがわ環保研だより Vol.7

平成18年3月

編集・発行 香川県環境保健研究センター  
〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105  
TEL：087-825-0400 FAX：087-825-0408

総務企画課	総務担当 企画情報担当	087-825-0400 825-0415
環境科学部門	水質担当	825-0401
	大気担当	825-0402
	常時監視担当	825-0403
	自然環境担当	825-0401
廃棄物・リサイクル部門	廃棄物担当	825-0405
	資源化・リサイクル担当	825-0405
保健科学部門	微生物担当	825-0412
	生活科学担当	825-0413
	臨床科学担当	825-0414

E-メール：kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

E-メール：kagawa-kanpoken@nifty.ne.jp（環保研・学習サポートボックス）

ホームページ：http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/e\_center/hoken.htm